

令和7年4月7日

<入学式式辞>

春の温かな日差しが感じられる季節となり、桜の開花が待ち遠しい時期となりました。そんな今日の佳き日に、鷹桜（ようおう）同窓会会長 様、PTA会長 様、長井市教育次長 様をはじめとする、来賓の皆様のご臨席を賜り、山形県立長井高等学校令和7年度入学式を挙行できますことは、新入生はもちろん、私たち教職員、在校生にとりまして、このうえない喜びであります。

先ほど、入学を許可いたしました129名の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんはただ今をもって、正式に長井高等学校の生徒となりました。これまで中学校においても、日ごろの学習に加え、生徒会や部活動などの各種活動に力を入れてきたことでしょう。高校生活ではさらに自分自身をたくましくさせ、能力を高めていくチャンスがたくさんあります。もちろん、授業も部活動も中身が濃くなり、レベルも高くなります。かといって、不安を強く抱（いだ）く必要はありません。同じ条件で頑張ろうとする仲間や先輩たちがいます。ぜひ、各種行事の他、探究活動やボランティアなどの様々なことに取り組んでみましょう。

さて、本校は大正9年設立の長井中学校、大正10年設立の長井実科高等女学校が前身である、長井南高等学校と長井北高等学校が統合され、現在の長井高等学校となっており、今年で創立105周年を迎えます。平成25年度からは進学重視型の単位制高等学校となり、平成30年度からは普通科探究コース、一般コースが設置され、「予測不可能な時代と言われる」昨今の、複雑な課題にも対応できる能力の育成を目指すとともに、地域をリードしていく人材の育成が本校の使命です。本校の教育活動では、通常の授業でも生徒同士が主体的に考え、自分の考えを発表し合い、その内容について議論することを大事にしています。また、「総合的な探究の時間」における協働的な活動をとおして、自らが設定した地域課題等の解決を目指す学習にも力を入れています。

本校の創立以来の校訓は「萬物、我に備はる（ばんぶつ、われにそなわる）」です。人は誰もが創造発展の力を自分の中に持っていて、これを自覚し学び続けることによって、その素晴らしい力が必ず引き出されるというものです。この校訓は、中国の儒学者である孟子の言葉です。ここで少し、儒教や孟子について触れておきます。儒教は、紀元前5世紀ごろ（日本は縄文時代の終わりごろ）の中国において、孔子によって始められた思想体系で、人間関係や社会秩序の調和を重視し、仁・義・礼・智・信といった徳目を中心に据えています。これらの徳を身につけることで、個人の道徳的成長と社会全体の安定が図られると考えられ

ています。つまり、自らの行動規範を学ぶものでした。

孟子は、孔子の孫である「子思」の門下生として学び、諸国を歩いて「君主は武力による霸道ではなく、仁愛による王道を用いるべきだ」と説いています。すなわち、リーダーに必要なのは、武力ではなく、周囲への思いやりの心だと伝えています。そのような孟子が残した言葉が本校の校訓なのです。

次に、話は変わり、芦田愛菜さんについてお話します。芦田愛菜さんと言えば、皆さんご存知の通り、その愛くるしい笑顔と演技力の高さで有名なタレントです。3歳から芸能活動を始めているようですが、小学校時代は、ドラマ撮影がある日も小学校の授業に遅れが出ないようスケジュールが組まれ、帰ってからも宿題や試験勉強をこなしていたようです。そして中学校は、学業と芸能活動を両立できる環境が整っているという理由で慶應義塾中等部に進みました。その後は内部進学で高等部へ、そして現在は慶應義塾大学法学部政治学科において、学業と芸能活動の両立に励んでいるようです。

先日、そんな芦田愛菜さんについて意外な新聞記事を見つけました。それは、気候変動対策や途上国の貧困撲滅などに取り組む国連開発計画の「国内親善大使」に就任したというものです。彼女が、気候変動対策、貧困撲滅の親善大使を引き受けたというのは、国民から愛されるキャラクターなのだから当然といえば当然でしょう。しかし、そんな彼女でも、「私でいいのか。私にできることはあるのか。」と考えあぐねたようです。誰しも新しいことを引き受けるには勇気がいります。愛菜さんのような百戦錬磨の経験をしている方でも、「自分に本当にできるのか」という感情を持ったというのですから、新入生の皆さんも新たなスタートを切ることには不安でいっぱいでしょう。しかし、頑張ろうとするその姿勢があれば、周りの方々が必ず応援してくれます。遠慮せず助けを求めましょう。そして、皆さんも彼女ほどではなくとも忙しくなる毎日です。スケジュール管理を徹底して高校生活を満喫してください。

また、この新聞記事の気候変動対策や貧困撲滅などのテーマは、本校の2年次に行く課題研究で取り上げるのもいいでしょう。こういった時事問題にも関心を持ち、見聞を広げて欲しいものです。このことが、将来の仕事や、大学の学部・学科を選ぶ際にも役立つ、大事な知識となるはずです。

ここで、保護者の皆様にも一言ご挨拶申し上げます。本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。これまでの中学校生活や高校受験に向けたサポート等、大変お疲れ様でした。高等学校時代はもっとも多感な時期です。心身の成長でたくましさを感じる一方、保護者の皆様にとっては心配ごとが増える時期でもあろうかと存じます。ただそれも大人への階段を昇る大切な過程です。よく「かわいい子には旅をさせろ」と言います。高校に送り出すことも小さな旅だと考え、そっと見守りながら支えていただければ幸いです。私たち教職員一同も力

を合わせてお子様をサポートしてまいりますので、本校教育へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会場の皆さんへひとつ質問です。人生にとって最も大事なものは何でしょうか？・・・・・・お金、命、仕事、勉強などの答えが思い浮かぶでしょう。もちろん、いずれも正解と言えらると思います。命が大事なのはもちろんですが、私が人生にとって最も大事だと考えるのは「やりがい」だと思っています。新入生の皆さんは、まずは「やりがい」と感じる教科・科目、部活動、趣味などを見つけ、とにかく高校生活を大いに楽しんで欲しいと考えています。

ここ長井市には「最上川」がゆったり堂々と大きな存在感を放って流れています。そんな大きな川も、小さな支流から水が集まってだんだんと大きな流れになっていきます。皆さんの人生も小さな積み重ねにより、大きな成果が生まれることとなります。ゆくゆくは、皆さん自身が「最上川」のように大きな存在となり、地域や家族を支え周囲を牽引する存在に成長してくださることを願っています。

では、新入生の皆さんがときどきわくわくな体験ができるよう、そして高校3年間で達成感に満ちたものとなるよう期待し、入学式にあたっての式辞といたします。

令和7年4月7日

山形県立長井高等学校
校長 上浦 勤